

研究者氏名：櫻井 雅美

調査・活動テーマ：美浜町における子育て中の母親の就労について～新しい働き場所～

調査・活動の目的

- ・地域課題を解決できる「新しい働き場所」をつくること。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

A. 視察

1) 視察概要

日時：2019年7月2日（月）

場所：ママスクエア長田店

(<http://mamasquare.co.jp/>)

参加者：櫻井雅美、沢里美和、生田祐江、廣澤節子、森里香

担当者：地域開発本部 南悠子

内容：事前に提出した質問事項に添っての説明と施設見学

目的：子育て中の女性の新しい働き方、空き家対策についての事例調査

2) 会社概要

女性の活躍推進やキャリアアップ支援を通じて働く機会を創出

・行政連携モデル

地方創生、女性の活躍推進やキャリアアップ支援を実現。また、休眠施設や、空き家、空きスペースを有効活用し人が集う働く場所に変える。キッズスペース併設型ワーキングスペースから派生し、インキュベーション拠点としての活用も。

・FC 事業

独自スキームであるキッズスペース併設型オフィスを立ち上げることでモチベーションの高い子育てママを大量採用。管理コストの大幅な低減が可能。全国 20 拠点のセンターを活用し、業務と従業員と、すでにそこで働いているママと業務を推進していく共同事業モデルあり。

3) 質疑応答からの考察

①事業の現状

- ・月に数回程度から半日を週5のような自由な働き方。
- ・月平均収入3万（数千円～上限8万）程度。人によって収入パターンは決まってくる。当初よりも雇用者数は減っており、受注も不規則なため安定した仕事の供給が行われていない。次のステップ（お子さんの手が離れたとき）として次の仕事までのブランクを埋める人が多い。子育て支援要素が強くなっている（社会的な孤立感解消）

②行政との連携

- ・設立までの補助金事業として、ハード面での連携。
- ・実証実験（商店街の空き店舗の活用、地域活性化）として、神戸市こども家庭局政策調整課に依頼があったときのみ情報提供している。予算はなし。対等な協働の形ではなく、現在はほとんど連携がない状況となっている。

③事業経過での変更点

- ・託児については無料でスタートしたが、現在は有料（300円/日）としている。
- ・交通費支給から無支給へなど改正をしている。経費削減のため雇用条件が当初よりも厳しくなってきた。視察当日も出勤者は3名程度と少なく、とても経営が安定しているとは思えない。

④今後について

- ・個性よりも安定な事業（→個性に合わせた仕事をこれから検討）
- ・地元の企業からの新規の受注の開拓が必要。（現在は関東から受注している仕事が大半）

- ・新店舗の展開は考えていない。当初の想定よりも雇用、仕事受注ともに安定せず、経営はかなり困難な状態にみえた。スキルによる賃金の差もなく、ゆるい感じが伝わってきた。

4) 美浜町で行う場合の課題・意見

- ・子育て中の女性の望む働き方の優先順位をはっきりとさせる必要がある。(時間、休み、場所、収入、福利条件、職種、緊急時の対応：子どもの病気、自然災害など)
- ・入力、テレワークだけでは仕事の受注は難しい。
- ・母親だけの就労だけではなく、障がい者や高齢者も含めて検討する必要がある。
- ・内勤だけではなくポスティングなど外勤や在宅ワークなども検討する必要がある。
- ・空き家対策も行えるのはとても効果が高い。

B. 企業での効果の検証①

1) ヒアリング調査

子育て中の女性の雇用を検討している 5 社に具体的な雇用条件についてヒアリングを行った。

①期待

- ・子連れであることで子育て層に共感を得やすい
- ・子育て中の女性を雇用していることでの企業イメージアップ
- ・子育て経験を生かした発想

②課題

- ・子どもの体調不良など突発的な欠勤
- ・子連れの場合は効率が悪い(特に天候に左右される)
- ・給料に対して理想が高い
- ・仕事に対して強く要求がしづらい
- ・どの程度働きたいのかわかりづらい

2) 実証

9月10~12日の3日間、棚卸の仕事を8名(1名0歳児の子連れ)で行った。

①参加者の感想

- ・久しぶりに働いて楽しかった。毎日ではできない

が、単発ならまたやりたい。

- ・子ども連れだったので心配したが、他の人にも助けてもらいながらやることができ、とても充実した時間を過ごすことができた。
- ・子どもと離れて集中して仕事をしたことで、働いていたときのことを思い出し、また働きたくなった。
- ・3日間だけだったが、子どもが体調が悪くならないか心配だった。両親に子どもを預かってもらえたのでできたが、一時保育にあずけてまではしないと思う。

②企業の感想

- ・予想していたよりも早く終わり、期待以上だった。これからも年2回程度定期的に依頼したい。
- ・お子さん連れの方が見えたので心配したが、特に問題もなくできることを知ることができた。

3) 検証

- ・雇用者数の少ない中小企業では、今回のように定期的な単発の仕事を受注することで、社員への負担を少なくすることができる。
- ・企業側では募集からシフト組みや仕事の説明などの負担は大きく、定期的に仕事の依頼ができる調整団体があると費用対効果の大きい仕事を受注となる。
- ・イメージだけで雇いにくさが先に立ってしまう傾向があり、実際に雇用体験をすると、予想以上の効果があり、定期的な仕事に繋がる可能性が高い。

C. 受注での効果の検証②

1) 内容

SmileyDreamにて募集し1部1.5円で受注
7月中旬に2週間程度、1部(2枚セット)2円で3,000部ポスティング依頼
子連れ(2歳児)母親1名、単身母親1名の計2名

2) 検証

- ・子連れでは時間がかかりすぎ、負担が大きい割には収入がないため、継続は困難。
- ・一人で生活の空き時間であれば、運動もかねてやるのは良い。
- ・暑い時期は活動時間が限られるため、子育て中の母親には難しい。
- ・人口密集地でマンションなどが多いエリアはとても効率が良いが、過疎地では効率が悪い。
- ・ポストの形や場所が多様で、慣れるまで時間がかかる。
- ・地理的な感覚や手順がわかるとより効率よく配布できる。状況によって期限内に仕事を完了できない可能性があり、かなりハイリスクとなる。受注するのであれば、子育て層だけではなく、高齢者などとタイアップして行うことで、リスク回避が可能。

D. アンケート調査①

1) 内容

対象：末子が未就園児の子育て中の母親

サンプル数：261

期間：平成29年7月～30年12月

質問項目

1. 働き始めたい時期
2. どんな働き方をしたいか
3. 働き続けたいか
4. 働きたい理由は
5. いつまで働き続けたいか
6. 子どもの年齢によって働き方を変えたいか

2) 結果

	働いている母親	働いていない母親
働き始める時期は	子どもの年齢が小さい時期に働き始めている。	子どもが保育園、幼稚園に行き始めたら働きたいと思っている。
どんな働き方をしたいですか	正社員、パートアルバイトの形態で働いてい	パートアルバイトでの再就職希望が多い。

か	る。	
働く理由は (複数回答)	収入を得る人が多く、次いで社会と関わる、スキルと活かすが多い。	収入を得ると僅差で社会と関わる、次いで時間を有効に使うが多い。
働き続けたいですか。	はい、いいえと答えた割合がどちらもあまり変わらない。 はいが8割、いいえが2割程度。	
いつまで働きたいですか	働きたい間が多く、体が動く限り、定年までと僅差で続いている。	働きたい間が多く、次いで体が動く限りと続いた。
子どもの年齢によって働き方を変えたいですか。	ほとんどの人が変えたいと答えた。働いている人の中には、今の働き方が条件に見合っていて、続けていきたいという人がいいえと答えていた。	

3) 考察

- ・働いている母親と働いていない母親では、働き方と働く理由に差があった。育児休業を取得し、働き続けている母親も多く、子どもを預けて働く母親はとて多い。
- ・働いていない母親の多くは末子が保育園、幼稚園に入る時が、働き始めるきっかけとなる。
- ・働き方はパートアルバイトが多く、特に働いていない母親の再就職希望も多い。
- ・働き方は子どもの年齢によって変えたいものの、働くことは続けていきたい。その期間は自発的に決めたいと思っている。

E. アンケート調査 (ヒアリングを含む) ②

1) 内容

対象：20～30代の末子が未就園児の子育て中の母親

サンプル数：20

期間：平成 30 年 12 月～31 年 1 月

質問項目

●共通

- ・働く目的
- ・育児をしながら仕事をする時の課題
- ・望んでいる働き方
- ・家事、育児の心配や扶養控除や社会保険の制約がなければフルタイムで働きたいか
- ・理想の年収

●働いている母親のみ

- ・現在の働き方
- ・現在の年収
- ・希望通りの働き方ができているか
- ・現在の職場に取り組んでほしいこと

●働いていない母親のみ

- ・仕事をしていない理由

●他ヒアリング

2) 結果と考察

- ・働き方は 2 つのパターンに大きく分かれた。働いている人は週 2～3 回のパート～106 万円、フルタイムで 200～300 万円の 2 つが多かった。子育てや家事を中心として仕事もしたいという母親と、経済的な理由または仕事が好きで続けたいという母親で分かれ、今後はこのような人が増えるのではないかとの意見が多く聞かれました。
- ・家事、育児の心配や扶養控除や社会保険の制約がなければフルタイムで働きたい 14 人/20 人で働きたいと思っている母親は 7 割程度いる。
- ・育児をしながら仕事をする時の課題は、どちらも子どもと過ごす時間が短くなる、家事育児の負担料が増えるが多かった。働いている母親の特徴として、子どもに十分な教育機会を提供できない、保育園、病児保育等の施設の不足、配偶者との関係が多かった。

F.他地域子育て支援者との意見交換

アンケート結果を踏まえ、あま市、一宮市、岩倉

市の子育て支援者、経営者サイドから今後の子育て中の女性の就労について意見交換を行った。

- ・女性活躍と言われ、専業主婦は肩身が狭い時代になってきた。男女共同参画の視点から捉えれば、本人が望む生活ができる社会なので、偏るのはおかしい。
- ・子育てで問題が起きた時に、働いていることに逃げてしまい、問題に向き合えない保護者が増えているように感じる。
- ・起業女子とかママ起業と言われているが、実際に収入をしっかりと得られている人はとても少なく、とても働いているとは言えない収入の人が多い。
- ・働いていない人は年収と仕事量が結び付けられず、スキルがなく高い収入を望むことがある。
- ・出産が高齢化していることで、介護と子育てが同時期になる人が増えている。子育ては配偶者と一緒にするのが主流になってきたが、介護はまだまだ女性が主体で長期化すると辛い。
- ・出産で離職した場合、できるだけ早く再就職しないと、スキルに不安が生まれ、再就職が遅れる。

G.美浜町で子育て中の母親の新しい働き場所について

子育て中の母親が中心となり、多世代、多種の就労の場を提案したい。

- ・ママスクエアのように子ども連れで働くことができる。
- ・ママが働く場としてだけでなく、高齢者や障がい者、外国人が働くことができる
- ・正社員として再就職を希望する人はスキルアップができる(ワンデイシェフ、パソコン講座など)
- ・美浜町の特産品などを開発・販売できる(学生とのコラボ)
- ・美浜町に限らず広域での活動
- ・営業やポスティングなど外勤
- ・空家を有効利用する
- ・平日は母親、土日・長期休暇は学生と異なる生活スタイルを組み合わせる

- ・子育て中の母親の孤独感解消のため、プレイスペースを設置
- ・地元企業との連携(CSR)

優れた効果・成果があがった点

- ・各行政担当課に「今後の子育てに関するサービスの在り方について」腰を据えて検討する時期に来ていることに目を向けていただくことができた。研究結果の情報提供を希望される市町が多く、今後の事業の方向性について、情報交換の場を持つことができた。
- ・知多半島外の子育て支援活動をしている団体や当事者と意見交換を行ったことで、今後の子育てに関するサービスの在り方について、共通の課題を持つことができ、解決に向けて意識が高まった。
- ・研究員として活動したことで、実践による経験値に頼っていたものの裏付けがされ、今後の課題がより明確になり、他者と共有しやすくなった。

委嘱期間終了後の今後の展望

広域における行政・教育機関、他大学にも、とても興味を持っていただけたので継続的に研究を行い、より多角的な視野のもとに今後の活動の参考にしていきたいと思えます。今後も現場の声を活かし、より子育てのしやすい社会作りに貢献できる活動を行っていきます。

美浜町における子育て中の母親の就労の新しい働き場所は、実現に向けて動きたいと思っています。